

身体拘束廃止研修

身体拘束せずに事故を防ぐ方法

－ 認知症利用者の事故防止対策 －

現場で培ったノウハウをお伝えする安全な介護が、動画セミナーを配信中！
第3弾は「身体拘束廃止職員研修」をリリース！

今すぐ抜粋版（12分）を視聴しよう！【本編は43分】

● PC版 → https://youtu.be/_4jKD1Dc6Xo

● スマホ版 →



※抜粋版は YouTube で公開していますが、動画本編は専用サーバーで提供します

感染症対策セミナー提供方法

動画セミナー視聴までの流れ

- 提供対象：介護事業者団体・介護事業法人など
- 視聴期間：1～3ヶ月間
- 提供資料：セミナーテキスト・付属資料
- 視聴開始：任意の期日を設定できます
- 提供価格：介護事業者団体50,000円＋消費税
介護事業法人40,000円＋消費税

- ①申込書を弊社宛メールで送付
申込書は弊社ホームページで：www.anzen-kaigo.com
- ②弊社より主催者にセミナー視聴ツールを送付
URL・QRコード・パスワード・セミナーテキスト・付属資料
- ③視聴者にURL・QRコード・パスワードを案内
- ④参加者はパソコンやスマホでセミナーを視聴

動画セミナー「身体拘束せずに事故を防ぐ方法」の概要

■セミナーの内容

1. 身体拘束廃止規制強化の背景
2. 身体拘束禁止規定に関する知識
3. なぜ身体拘束は禁止されたのか？
4. ケアの工夫で身体拘束を廃止する取組
5. 認知症利用者の事故防止対策
 - ・徘徊中の転倒事故 ・居室の転倒事故 ・誤えん事故
 - ・異食事故 ・行方不明事故 ・誤薬事故



現場実践講師

■セミナーテキスト（手持ち資料）の例

4. 不適切なケアをなくす現場の取組

身体拘束や虐待は
その前段階に不適切なケアがある

不適切なケアが放置されることで、
不適切な身体拘束にエスカレート
不当な身体拘束が発生する仕組み

【事例4】認知症の利用者の異食事故

●異食癖がある認知症の利用者への対応に留意
異食事故は命にかかわるので、身の回りの物をできるだけ遠ざけて異食できないようにしているが限界がある。

異食した時生命にかかわる危険物品のみ厳重管理
身の回り品を遠ざけると不潔になり、色々な場所に入り込んで移積するのでかえって危険。生命にかかわる危険物品は厳重に管理しよう。

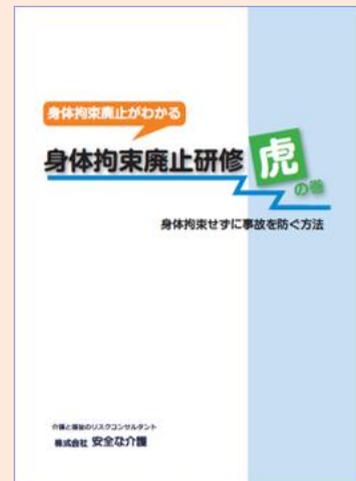
■異食した時生命にかかわるリスクとは？
①窒息のリスク：異食した物が喉に詰まって窒息する
→最もリスクの高い異食物品
②消化器官損傷のリスク：異食した物によって食道や胃を損傷する
→固形物と化学作用で消化器に多大な損傷を及ぼす物がある
③中毒のリスク：毒性成分の摂取により中毒症状を起こす
→洗剤や消毒薬などは生命に危険が及ぶ物品は極めて少ない

どんな物品を厳重に管理すれば良いのか？

動画セミナーだけの特典！

職員研修指導者用冊子

「身体拘束廃止研修虎の巻」
をプレゼント！



※10冊まで無料それ以上は有償となります

動画セミナーに関するお問い合わせは

株式会社安全な介護 受付担当 澤田

mail:soudan@nanasha.co.jp TEL:03-5995-2275